

Jミルクの沿革

- 1978年 全国牛乳普及協会 設立
- 1980年 社団法人全国牛乳普及協会として認可
- 1981年 全国学校給食用牛乳供給事業推進協議会 設立
- 2001年 酪農乳業情報センター 設立
- 2004年 全国牛乳普及協会、全国学校給食用牛乳供給事業推進協議会、酪農乳業情報センターの3団体の統合により、社団法人日本酪農乳業協会 設立
- 2013年 公益法人制度改革により一般社団法人Jミルクへ

正会員(23会員)

酪農生産者、乳業者、牛乳販売店の全国団体(7会員)
(一社)中央酪農会議、全国農業協同組合連合会、全国酪農協同組合連合会、(一社)日本乳業協会、
全国農協乳業協会、全国乳業協同組合連合会、(一社)全国牛乳流通改善協会

地域ブロックの生乳生産者団体及び乳業者団体(16会員)

ホクレン農業協同組合連合会、東北生乳販売農業協同組合連合会、関東生乳販売農業協同組合連合会、
北陸酪農協同組合連合会、東海酪農協同組合連合会、中国生乳販売農業協同組合連合会、
四国生乳販売農業協同組合連合会、九州生乳販売農業協同組合連合会、(一社)北海道乳業協会、
東北乳業協議会、関東甲信越ブロック乳業協議会、東海北陸ブロック乳業者団体協議会、近畿ブロック乳業協議会、
中国ブロック協議会、四国地区乳業協会、九州牛乳協会

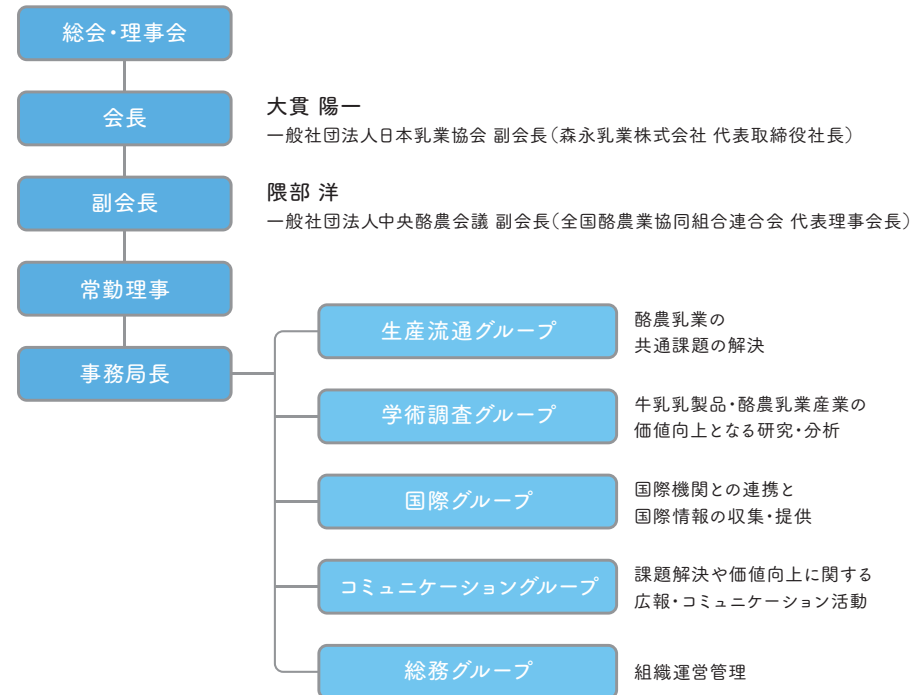
賛助会員(40会員)

都道府県の牛乳普及事業実施団体他(40会員)

特定賛助会員(55会員)

国際関連事業を賛助する企業・団体・個人(55会員)

事業組織

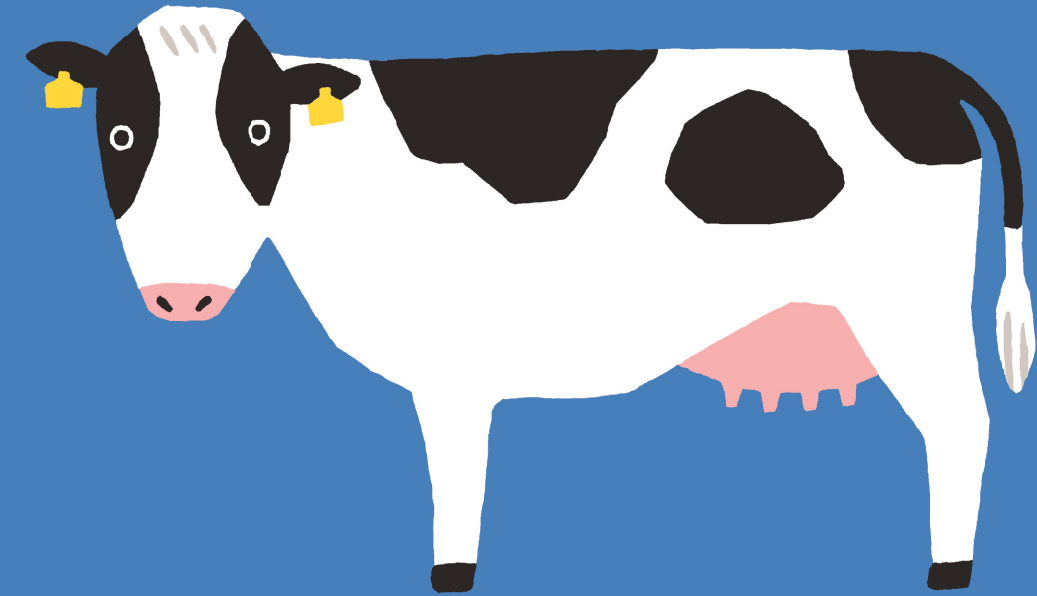


〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1-20 お茶の水ユニオンビル5階 TEL 03-5577-7492 FAX 03-5577-3236

✉ info@j-milk.jp 🌐 <https://www.j-milk.jp> 📘 <https://www.facebook.com/jmilkjp>

📷 j_milk_official 🐦 @Jmilkofficial 📺 YouTube公式チャンネル

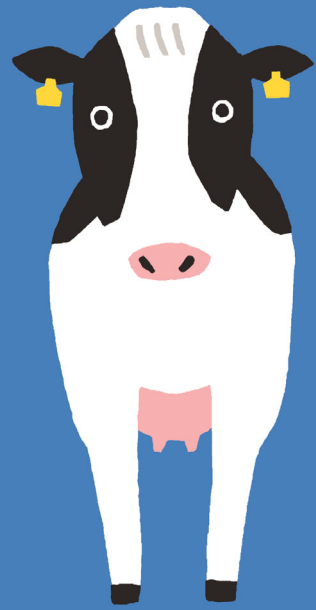
2024年7月 発行



What is J-milk?



一般社団法人 Jミルク



What is J-milk?

Jミルクは、日本のミルクサプライチェーンを構成する、酪農生産者・乳業者・牛乳販売店が一体となった、業界横断的な組織です。



Jミルクのミッション

わが国の酪農乳業が、国産牛乳乳製品の安定的な供給を通して国民の健康と豊かな食生活に寄与し、生活者との強固な信頼関係を築くには「ミルクサプライチェーンを構成する関係者が互恵的・安定的な関係を保つこと」が不可欠です。

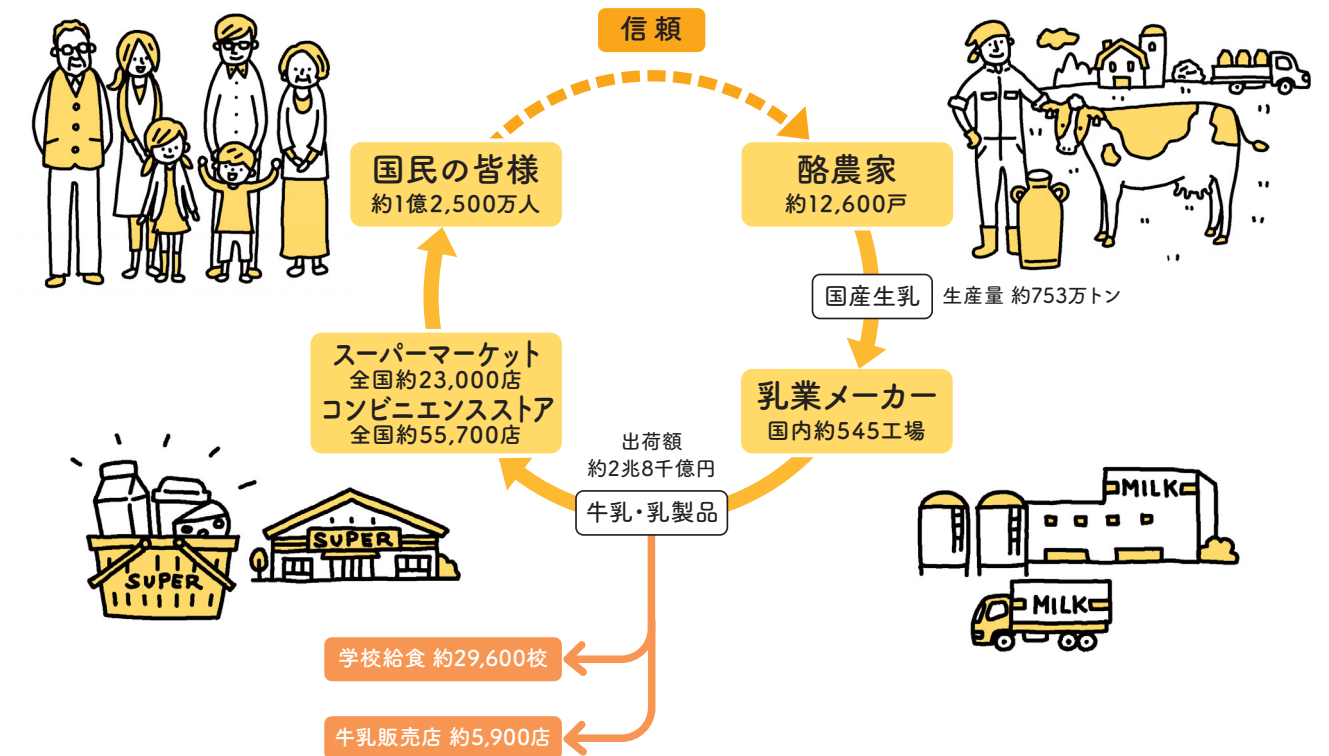
Jミルクはこれを実現するため、酪農乳業関係者やミルクインフルエンサーに対して、酪農乳業の共通課題の解決及び牛乳乳製品の価値向上につながる情報を提供します。

Jミルクを構成する関係者とは

ミルクサプライチェーンとの位置づけ

牛乳乳製品が酪農家から食卓に届くまでの、原料⇒製造⇒流通⇒販売といったモノの流れを「ミルクサプライチェーン」と呼びます。酪農家から食卓までスムーズにミルクをリレーすることで、より安定した供給を行うことができます。

Jミルクはミルクサプライチェーンの核となる「酪農家」「乳業メーカー」「牛乳販売店」の関係者で構成されています。



Jミルクの情報提供ターゲットとは

ミルクインフルエンサーとサポートメンバー

Jミルクでは一般生活者の食生活に大きな影響を与え、牛乳乳製品の価値を伝えていただける医療・栄養・教育分野の関係者を「ミルクインフルエンサー」と呼んでいます。

また、Jミルクの活動を積極的にサポートしてくれる、酪農乳業・専門家・行政などの関係者を「サポートメンバー」と呼んでいます。



酪農乳業の共通課題を解決するために

牛乳乳製品の安定供給や安全・安心に関する共通の課題や情報に対し、信頼できる情報を整備し、酪農乳業関係者などと共有することで、課題解決に貢献したいと考えています。

共通課題 1

牛乳乳製品の安定供給

- 酪農乳業の経営安定に資する献策
- 的確な需給情報の提供
- 円滑な生乳流通、牛乳・乳製品供給への対応
- 酪農生産基盤の維持・強化

共通課題 2

安全性確保と品質向上

- 国産牛乳乳製品の品質向上の取り組み
- 国のポジティブリスト制度に対応
- 農薬等の残留を防ぐ取り組み

情報の整備と協働

課題解決に向け、様々な情報を整備し協働します。



- 酪農乳業の課題解決に向けた検討と実行
- 生乳及び牛乳乳製品の的確な需給予測・公表
- 国の規制等に係わる生乳の検査、基準等への対応
- 安定的な学校給食用牛乳の供給への取り組み
- 災害等に対する危機管理の適切な対応
- 酪農乳業の持続可能性を高める取り組み

信頼を確保するための
情報提供と協働

信頼性の高い情報発信

最新情報の提供



酪農乳業関係者



マーケット（一般生活者）



メディア

牛乳乳製品の価値向上のために

栄養・健康機能などの新しいエビデンス（科学的根拠）に係わる情報を集め、社会ニーズにあわせた分かりやすく伝わりやすい情報にして、ミルクインフルエンサーなどを通じて、牛乳乳製品の価値を生活者に伝えています。

新しい価値を解明する



乳の学術連合

- 牛乳乳製品健康科学会議
- 乳の社会文化ネットワーク
- 牛乳食育研究会

「乳の学術連合」は、社会的評価が高い日本の多様な分野の研究者間で、互いに連携して研究を行う組織です。信頼される牛乳乳製品の価値情報を構築しています。

牛乳乳製品に関する食生活動向調査

生活者の本質的なニーズを解明

- 食生活や健康上の課題
- 牛乳乳製品に対する認識や意識
- 情報提供の効果検証

価値を高める情報の構築

一般生活者が求める情報へ

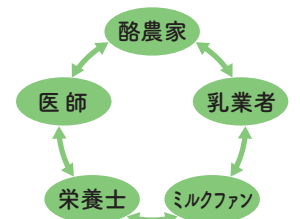
1 知見の集積

- 乳の学術連合で実施
- 価値向上に関わる研究
- 健康・栄養・産業・文化・教育的価値の情報収集

2 情報コンテンツの開発

- コミュニケーションパートナーと共創
- わかりやすい表現開発
- 伝わりやすいツール開発（例：乳和食、アンチミルク、市場動向など）

コミュニケーション
パートナー



コミュニケーション活動（Webサイト・セミナー・ツール提供など）

ミルクインフルエンサー

医療・栄養・教育関係者



酪農乳業関係者



メディア

ジャーナリスト



一般生活者

酪農乳業の国際化に対応するために

2019年に国際関連事業を新設し、海外の関連機関との連携を深め、ミルクサプライチェーンのグローバル化やSDGsの達成に向けた世界的な課題への取り組みを強化しています。

国際関連事業

国際機関等との連携

国連食糧農業機関(FAO)など国際機関との連携・情報収集

国際情報の提供

国際関連情報の関係者への情報提供

IDF日本国内委員会(JIDF)の活動

国際酪農連盟(IDF)活動への参画、JIDF専門部会の開催、情報収集等



Jミルクが国際関連事業を新設した経過と意義

- 1 IDF World Dairy Summit(WDS) 2013横浜での国際交流を契機に、国内の酪農乳業関係者や乳の学術連合で、国際的な活動への関心が高まる。
- 2 Jミルクが、2013年以降のWDSや酪農乳業の国際比較ネットワーク(IFCN)への参画や、GDP日本会議2015の開催など、国際的な事業を強化。
- 3 牛乳乳製品の国際規格に加え、酪農乳業政策、家畜福祉、酪農の持続可能性・環境問題などの諸課題に対する、国際対応を世界水準に引き上げることを目指す。
- 4 2019年4月、国際関連事業を新設し、国際グループを設置。Jミルクに国際関係業務を統合・集約するためJIDF事務局の移管する。

国際情報の収集と提供方法

国際機関・組織からの最新情報の入手

- 各国・FAO・世界保健機関(WHO)などの政策情報
- 国際的な学会等からの価値情報
- IDF・GDP・IFCNからの国際情報

デジタルアーカイブ化と関係団体との連携

- デジタルアーカイブ化により関係者の利用を促進
- 関係団体に協力を得ながら迅速な情報提供を図る

Jミルクが連携を進める国際機関・組織



Food and Agriculture Organization of the United Nations

国際連合食糧農業機関(FAO)

SDGsの達成に向けた取り組みやWorld Milk Dayの推進などで連携



国際酪農連盟(IDF)

国際会議への出席
FAO・WHO・ISO・OIEなどと連携・協働



GLOBAL DAIRY PLATFORM

Global Dairy Platform (GDP)

世界のマーケティング活動とアンチミルクなどの情報収集
世界の酪農乳業に関わる共通課題への連携対応



IFCN Dairy Data · Knowledge · Inspiration

International Farm Comparison Network (IFCN)

日本からの情報提供による酪農経営の国際比較研究
世界の酪農乳業の将来予測や課題分析を実施

持続可能な産業として未来へつなぐために

酪農乳業が将来にわたって力強く成長し、環境と共存しながら持続可能な発展を続けるために、今後の取り組みの指針となる戦略ビジョンを2019年10月に策定し、関係者に提言しています。

提言冊子



提言の目的と位置づけ

この戦略ビジョンは、日本の酪農乳業を展望ある持続可能な産業として将来世代に受け渡すため、今後、酪農乳業関係者が目指すべき産業のあるべき姿、連携して取り組むべき戦略視点、求められる行動や政策支援の方向性を整理したものです。

わが国のミルクバリューチェーンに関わる全ての関係者が、これらの戦略視点を共有し、政策的支援も得ながら、自覚的に取り組みを推進するとともに、その成果や課題も共同で検証していくことが重要です。

持続可能な発展に向けた3つの戦略視点

- 【成長性】 乳の価値を高め、産業規模を維持・拡大し続ける
- 【強靱性】 経験のないさまざまな変化に弾力的に対処する
- 【社会性】 社会の要求に応え、消費者の信頼と共感を得る

戦略視点の実現を支える3つの行動特性

- 【未来志向】 産業の未来の姿を展望し、将来世代にリスクを先送りしない
- 【多様性理解】 多様な価値観やスタイルを認め、共存できるようにする
- 【自律性】 全体最適化に貢献するため、自らの行動を制御し他者と協調する

SDGsへの取り組みを通じた酪農乳業の価値向上

酪農乳業の社会的な価値を高め、中長期的な持続可能性を強化していくため、Jミルクは国内酪農乳業セクターのSDGs(国連の持続可能な開発目標)に対する取り組みを支援しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標

